



平成27年11月1日現在

総世帯数	1,485世帯
総人口	2,758人
男	1,296人
女	1,462人

松本市消防団

第三分団御報告

北源地 大野 貴由

「消防署と消防団、どこが違うのだい！」とよく聞かれます。私達消防団は皆別々の職業に就いていて、会社員、自営業、職人等全員がそれぞれのプロです。しかし万が一の火災、水害、地震等の災害発生時には、地域や松本の為に出動するボランティアの団体で身分は準公務員となっています。

「何をやってるのだい！」ともよく聞かれます。消防車や機材の整備、点検、いろいろな災害に対しての警戒や訓練また予防の為の広報活動です。近年は行方不明者の捜索なども多くなりました。常備消防の手の回らない部分を私達消防団が補い両輪となって災害に向き合っています。

第二地区は十八町会の内第三分団が常盤町、錦町、向島、長沢町、梅ヶ枝町、栄町、中条東第一、第一、第二、

第四町会、南源地、北源地の十二町会を、また第四分団が飯田町一、二丁目、小池町、天神南小池町、宮村町一、二丁目の六町会をそれぞれ管轄して活動しています。

私達消防団は常に「最良を願い、最悪に備えよ」と教わっています。牛伏寺断層の上にある「第二地区」万が一の場合、自助・共助・公助、いろんなパターンで各町会や防災部の皆さんと力を合わせて災害に対処して行きたいと思っています。

今年の三月下旬、第三分団詰所が、あがたの森公園向かいの森田GSの南側に新築移転しました。第二地区からは少々離れたましたが、南源地の三村隆彦、第三十一代目分団長を中心に「松本」



我街今昔

中条東第四町会長 清水 一宏

私がこの街へ来たのは、昭和四十年代後半の頃でした。

家の前はドブ、はめ板のある古い町並で、全ての職業の人々が住んでいました。仕舞屋、店舗、飲食店、職人の作業場、工場と建物がぎっしりでした。又その建物から色々な音が聞こえて活気のある町並でした。今日の空家や駐車場の現状から想像のつかない光景でした。

表通りから一步入ると公民館と広場があり、そこには遊具が整って遊園地でした。だが遊具は傷み又遊ぶ子供も減少し惜しみながらも撤去となり、その後、ゴミステーションとなりました。広場の一角には小さな祠

を背中に染め抜いた法被を誇りに地域の皆様に安全、安心を与えられるよう頑張りたいと思います。

移転しても私達の心意気構えは全く変わりませんが四十年近く連れ添った、火の見櫓と別れなければならなかったのは残念で寂しく思いました。

が鎮座しており秋葉神社の祠です。祠はこじんまりしているが幟り一對、町名入提灯、紅白幕等飾り付けて、春秋二回の例大祭が行われ、先日も秋の例祭を行いました。当日は町内役員を先頭に飾り付け、夕方より神官さんを招き祭祀を行い、最後に参列者全員が災害の無い事を祈り玉串を納めて祭事は終わりました。その後、公民館へ移り神官さんを囲んで直会です。宴の準備は隣組長の仕事になり当番隣組長は大変です。

このように皆揃って飲む機会は年三回程あります。この時が町内外の情報交換場でもあり、又町会運営の参考にも意見交換の場にも成っています。

町内も高齢化が進み、家の内へひきこもり、外出する機会も少なくなっています。



す。外へ出て雑談したり、大声で笑ったりすることが非常に良いと言われています。

先日もテレビのニュースで一日に笑う機会の多い人は少ない人より何倍か健康に良いそうです。

当町会も月に一度でもそのような雑談の出来るような機会を作りたいと考えています。

先輩から受け継いだ町。良い所は守り、すこやかに発展するように努力していきたいものです。



紅葉に映えるすすき川 昔を語る町会碑

第18回 第二地区

文化祭

11月7日、8日の2日間、第二地区文化祭がすすき川の紅葉に包まれた公民館で行われました。力作がそろった展示作品、玄人踊のステージ発表に会場は盛り上がりました。バザー、秋の野菜、おやき、寿司、そばなどの販売も好評でした。



第二地区 防災訓練

平成27年10月4日に今年度の第二地区防災訓練が行われました。今年は毎年恒例の消火訓練・救護訓練・炊き出し体験に加えて、給水車による給水体験も行われ、地区住民の皆さんは各々、真剣に訓練に取り組んでいました。

消防団員の方のお話では、このような日頃からの訓練が役立つ事例も数多いとの事ですので、今後も継続して続けていくことが大切だと感じました。

「私ら若いころは、松本の町なかから王ヶ鼻まで歩いて、その日のうちに帰ってきたものよ。」と、ご近所の八十代健脚奥さん。私は三城から二回登ったきり。すっかりパネの弱くなった膝が恨めしいが、静かな林を抜けて王ヶ鼻に辿り着いたときの喜びを、なんとか今一度と願っている。三城からの登山道は荒れ果てていないだろうか。それにしても、自然はなんと多くの恵みを私たちに与えてくれるのだろうか。(斉藤)

すすき川

松本の町から仰ぐ美ヶ原、王ヶ鼻が好きた。駅前大通りからあがたの森公園のヒマラヤ杉の向こうに見える王ヶ鼻、薄川と桜並木を配してそびえる王ヶ鼻。季節ごとに装いを改めて見せるどの景色もそれぞれに美しく、心踊らされる。王ヶ鼻に向い合うと、古い友人と顔を合わせたかのような懐かしさが込み上げてきて、言葉にならない感情で饒舌に語り合っている。子どもたちは皆巢立ち孤独な老母ではあるが、この町に住み美ヶ原を仰ぎ見る日々は、心豊かで寂しさを感じることはない。